

那賀川水系河川整備計画【素案】に対する 主なご意見と【修正素案】での主な対応

「那賀川水系河川整備計画【素案】」について、意見を聴く会やハガキ等で、多くの皆様からたくさんのご意見をいただきました。国土交通省・徳島県では、それらの意見のひとつひとつをしっかりと受けとめ、出来る限り反映した「那賀川水系河川整備計画【修正素案】」を作成しました。

河川整備計画について

- 計画が平面的になっていて、河川整備の時系列的な進め方がつかめない。優先順位をつけて10年後、20年後の整備イメージが示されれば、流域住民にとっても分かりやすく身近なものになる。
- 国、徳島県、市町が連携し、また住民とも連携する機能が大事であると思う。
- 30年と言う長い期間での河川整備計画をするのなら、土砂災害や利水の問題を考へて、森林整備計画も合わせて並行してやるべきではないでしょうか？
- 河川整備計画において新設ダム建設も検討の視野に入れてはいいか。

災害の防止又は軽減について

- 新しい長安ロダムの操作ルール適用のタイミングをどのように考えているのか。
- 100年に1回の洪水への対応が将来目標であるが、住民の苦しみを少しでも早く緩和してほしい。
- 住民との対話の機会を十分に持ち、一日も早くこの計画を実行に移していただきたい。
- 那賀川が氾濫すると浸水被害を受けるので、特に堤防の漏水対策を十二分に検討していただきたい。
- 利水安全度を1/7ではなく1/10に上げてほしい。

河川環境について

- 現状と課題の認識があまりできていない。もう少し特徴的な生物など客観的な裏付けを持って、環境面に踏み込んでいけばある程度見えてくるのでは。
- 選択取水設備の設置については、ダム湖内の水塊構造と濁り、さらに生物との関係などをしっかり把握した上で、実施する必要がある。
- ダムから下流の十八女に至るまでの川底は、砂利が無くなり岩盤ばかりで魚もいなくなった。
- ダムがなければ昔の清流が復活し、海まで土砂を流すことができる。自然をもっと大切に。
- 様々な生物が生息する環境条件を壊せば、川がよくなる。

河川やダムの維持・管理について

- 長安ロダム上流でほとんどの土砂を排除する計画は不可能に近いのではないか。
- 長安ロダムの堆積土砂の対策について、半永久的に堆砂対策が実施できるのが疑問である。いろいろな研究を進めて長期的な堆砂対策を進めてほしい。
- 排砂バイパスをつくり、下流に土砂を流してほしい。
- 浚渫（水中掘削）は、長期的に河川水を濁らせるのでやめていただきたい。
- 小見野々ダムの堆砂問題について、どのように考えているのか。
- 環境基準の指標であるBODが、本川よりやや高めとなっている岡川については、汚濁源削減対策の啓発活動をいっしょになって取り組んでいただきたい。

堆砂対策

森林の取り扱い

河川環境のあり方

事業の優先順位

●皆様のご意見に対する【修正素案】での主な対応

堆砂対策について

Q 長安ロダムの堆砂対策について、ダム上流で土砂を掘削する方法以外に、洪水の力を利用して土砂を下流に流す「排砂バイパス」などの対策が必要ではないか。

A 「長期的な堆砂対策については、今後も効果的・効率的な対策となるよう排砂バイパスなどを含め、流域全体の課題を視野に入れた対策の検討を引き続き行う。」と【修正素案】に記載しました。

森林の取り扱いについて

Q 治水、利水と森林の関わりについての記載が欠落しているのではないか。

A 治水・利水と森林の関わり、森林整備に対する関係機関との連携・協力の取り組みについて【修正素案】に記載しました。

河川環境のあり方について

Q 河川環境の現状と課題の認識について、特徴的な生物など客観的な裏付けを持って踏み込んで記載すること。

A 現行までに行ってきた「河川水辺の国勢調査」等の河川環境調査結果を環境区分毎にとりまとめた上で、特定種の出現データを記載することで、各区分ごとの特徴を【修正素案】に記載しました。

事業の優先順位の考え方について

Q 整備計画の期間が30年と長いことから、優先順位をつけて10年後、20年後の整備イメージを示してほしい。

A 本整備計画で実施する事業の優先順位の考え方について【修正素案】に記載しました。